

平成29年12月12日
東部農林振興センター 松江農業普及部

標 題 「牡丹栽培研修会」で活発に意見交換（松江大根島牡丹協議会）

（ダイジェスト）

12月7日、JAしまねくにびき地区本部八束支店において、生産者21名を対象に、DNA解析による品種識別技術と根黒斑病対策に関する研修会を開催しました。農業技術センターの担当研究員が講師を務め、牡丹産地の維持向上に向けて大変有意義な研修となりました。

今回は松江大根島牡丹協議会の主催により、農業技術センターが取り組む研究成果を生産者へ情報提供し技術向上を図るとともに、現場からの意見・要望を把握する場として開催しました。

現在、協議会では、品種管理や販売促進活動への品種データ（品種別画像、DNA解析による品種識別情報等）の有効活用や安定生産の障害となっている根黒斑病等の病害対策等に取り組んでいます。

最初のDNA解析による品種識別技術については、八束町の牡丹品種は古くから個人の育種に依存してきたため、品種情報の正確な取扱いが十分でない状況があるため、今回、DNA解析により識別できる品種数が325品種から347品種に増加したことが報告されました。

次の根黒斑病対策については、温湯処理が有効とする実証試験結果が生産者へ説明されて、生産者へのさらなる普及を啓発しました。

生産者からは、品種母樹園での品種特定方法や、根黒斑病対策の温湯処理時期やヒゲ根処理等について質問・意見が活発に出ました。

農業普及部では、今回の研修会結果を踏まえて農業技術センターと連携し、牡丹産地の維持向上に向けた活動を展開したいと考えています。

